



大局観を養う

新しい年を迎えて、早一ヶ月が経ちました。3学期が順調に進んでいたところでしたが、先日来本校においてもインフルエンザが流行し、今週1年生では2クラスの学級閉鎖を致しました。2月にかけてまだ予断を許さない状況と考えます。予防策ではマスク、うがい等に加えて、「手指の清潔」が大切であると言われます。手を口や鼻の周りに持っていくことは、無意識のうちにもよくあります。「手洗いの励行」により感染予防を図ってほしいと思います。特に受験を控えた3年生、スキー移動教室を控えた2年生は十分に用心をしてください。

さて、将棋界では高校生プロ棋士の藤井聡太七段が大活躍していますが、将棋や囲碁において、ある局面で全体としての形勢の判断をすることを「大局観」と言います。転じて、この言葉は「物事の全体像をつかむ能力」を指し示すようになりました。最近、TV番組などで「平成という時代を総括する」といった趣旨の番組がよく放送されていますが、こうした時代の節目はこれまでの出来事や流れを改めてまとめ、今後の指針を導き出していくのに絶好の機会と言えます。各人が大局観を養うことで、新しい時代の正しい判断につなげていけるのではないのでしょうか。

私が中学校に奉職したのは今から約35年前、昭和の後半でした。もしかしたらその頃に中学生だった保護者の皆様も多くいらっしゃるかも知れません。ところで、当時の私は当然のことながら現在の学校の姿を予想することは全く出来ませんでした。昭和当時の学校体制、雰囲気はずっと続くと思っ込んでいたわけです。その後、様々な点で学校は様変わりしました。PCの導入など施設設備の変化ももちろんありますが、最も変わったのは学校を取り巻く社会全体の意識、とりわけ「個の尊重」「個性の尊重」といった面ではないかと私は思っています。具体的には一人一人に応じた丁寧な対応、評価も他者との比較が中心の相対評価から個人の評価である絶対評価へ、いじめ防止・体罰等の根絶による人権の保障等々挙げられます。我々教員はこうした変化に十分に対応し、ここまで積み上がってきた良い点は今後もしっかり継続させていく必要があります。

一方で、現状で良しと考えるだけでは、35年前の自分と同じであり、大局観を持っているとはとても言えません。一例として、「個」が尊重されることの反作用として、個と集団の関わりという点で現状はどうなのか、今後どういった意識を育てていかなければならないのかといった大局的な課題意識を持たなければなりません。実際、このことについて言えば、以前に比べて、クラスなどの集団への帰属意識や集団の一員としての役割を果たすといった面が低下しているように感じます。

学園中では、よりよい集団意識を育てるために、日常的な班活動、各種委員会活動はもとより、運動会、合唱コンクール、旅行的行事等では生徒の実行委員会を立ち上げ、自治的に取り組むようにしています。そうした経験を通して、生徒一人一人が集団で力を合わせることのすばらしさや集団の持つ力を実感し、個人としてのあり方の深まりにもつなげていければと考えています。

年度末としての節目も近づいています。来月には、先日いただいた学校アンケートの結果も踏まえつつ、次年度への展望をお示し致します。

1年生百人一首大会

1月11日（金）5校時に1年生は武道場で百人一首大会を実施しました。12月から百人一首を国語の時間などを使い学習し、練習も積み重ねていきました。また、冬休みの宿題として課題も出され、しっかりと暗記をしている生徒も多く、上の句の読み始めから札を取っている生徒もいました。あるクラスでは始まる前に円陣を組み気合いを入れているところもありました。百人一首は日本の伝統文化の一つであり、生徒たちはその良さを感じながら、それぞれ好きな歌を覚え、札を取れるように努力していたようです。対戦はちらしというやり方でメンバーの力量が同じになるように班分けをして行いました。結果は以下の通りです。



優勝 C組 準優勝 A組

名人 B組 大内 凜乃さん C組 黒澤 しほさん 最多 C組 川上 華穂さん

終了後はPTA学年委員のみなさんのご協力により、特製のどら焼きが生徒に配られました。どら焼きの餡は白あんと小豆の2種類が入っていて大変おいしくいただきました。例年はお汁粉が振る舞われていましたが、予算等の関係でお菓子を配る形となりました。PTA学年委員さんのご尽力により心温まる行事となりました。たくさんの方々の保護者の方々の見学、ご協力、本当にありがとうございました。



道徳授業地区公開講座

1月12日の第2土曜日に、今年度の『道徳授業地区公開講座』を行いました。この取組は、道徳の授業を保護者や地域の方々に広く公開して、家庭・地域と連携して、道徳教育の在り方について、相互に理解を深めることをねらいとして、毎年行っているものです。この取組が東京都で行われた当初は100人単位の参加者と道徳に関する講演会を行っていた時もありました。今年度は多くの方が参加しやすいように2校時の授業後すぐに意見交換会を各学年で設定しました。授業の参観は、30名ほどの方にご参観いただきましたが、意見交換会はまだ少人数でしたので、今後参加しやすいように工夫していこうと考えております。今年度は全学年で主題を統一して行いました。



1 学年 資料名「兄の声が聞こえる」
 出典：『東京都人権プログラム』
 主 題：公平、公正・社会正義
 <内容項目 C-（11）>



2 学年 資料名「張くんの笑顔」
 出典：『中学生の道徳2年』
 主 題：正義、公正、公平、差別や偏見のない社会の実現 <内容項目 C-（11）>

3 学年 資料名「リスペクト・アザース」
 出典：第24回中学生人権作文コンテスト 法務大臣賞作品
 主 題：公平、公正・社会正義 <内容項目 C-（11）>

練馬区中学校生徒作品展

1月12日（土）～16日（水）の期間で練馬区立美術館において練馬区中学校生徒作品展の展示が行われました。教科名と作品名をお知らせします。出品作品の合計は127作品と大変多くの作品が展示されていました。



○美術科 計57作品

- ・1年生 スクラッチグラス 12作品
- ・2、3年生 キューブパズル 30作品
- ・3年生 立体的な平面構成 15作品

○技術科 2年生 木工作品 9作品

○家庭科 計61作品

- ・1年生 ティッシュカバー 18作品
- ・2年生 トートバッグ 16作品
- ・3年生 知育トイ 27作品



1年女子校内ダンス発表会

1月24日（木）の6校時後に体育館で1年女子による校内ダンス発表会が行われました。多くの保護者の方に来ていただきありがとうございました。今回の発表順のクラスと作品名及び要約を紹介します。進級して2年生になると練馬区立中学校連合ダンス発表会へ出場するようになります。



○A組「和と洋」

日本文化である「和」と、外国の文化である「洋」をダンスで表現します。「和」は日本の伝統の動き、「洋」は外国の華やかな様子を表現して、最後は日本と外国が交流している姿を表現しました。

○D組「Peace Road」

人間とゾンビのある物語をダンスで表現しました。森の中で人間たちが、ゾンビに襲われ、ゾンビになってしまいます。生き残った人間がゾンビと戦い、ゾンビを人間に戻すという内容です。

○C組「天使と悪魔」

天使と悪魔の関係の中にある「プライド」をダンスで表現しました。天使の穏やかで美しい世界をかつこよくて自立心が強い悪魔が壊そうとしてけんかになります。長い間、けんかし続け、お互いの気持ちに気づき始めます。

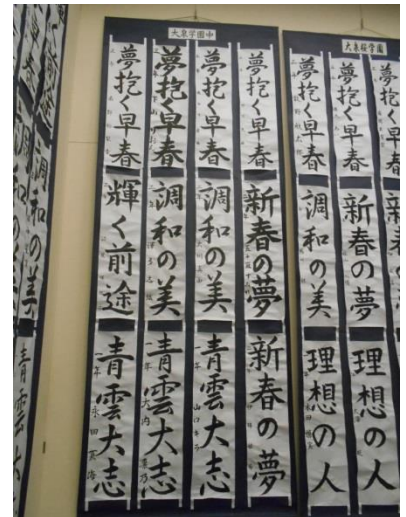
○B組「ドッペルゲンガー」

有名な怖い話「ドッペルゲンガー」をダンスで表現しました。ドッペルゲンガーとは「もう一人の自分がほしい」と願った人間が、本当にもう一人の自分と出会い、自分という存在が、その、もう一人の自分に殺され、そして、存在を消された人間は、再び「自分」を探しに行くという話です。

練馬区書きぞめ展

1月26日(土)～27日(日)の期間で練馬区立美術館において小中学校連合書きぞめ展が行われました。学園中からは12名の学校代表の生徒の作品が出品されました。ご紹介します。

- 1年生 山口 キラさん 大内 凜乃さん 永田 夏海さん
- 2年生 大川 真由さん 伊藤 綾希さん
五十嵐 すみれさん 澤多 志織さん
- 3年生 下山 りおんさん 野邊 恵麻さん
沼尾 咲弥子さん 長谷川 愛海さん
南野 裕梨音さん



練馬区立中学校連合ダンス発表会

1月29日(火)、第53回連合ダンス発表会が練馬文化センター大ホールで行われました。学園中からは、2年C組の女子が代表として参加しました。タイトルは「海の中では…」でした。

校内選考会以降、朝や放課後に、より完成度の高いダンスを目指し練習を重ねてきた2年C組女子のみなさん、お疲れ様でした。まとまりと表現力のあるとてもすばらしいダンスでした。

